

令和8年  
2026年

1月15日  
木曜日

第11870号

# 食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日  
第三種郵便物認可

購読料(前納)  
年間 82,080円  
(税込み)  
6か月 42,120円  
(税込み)

本紙は関連企業・団体との  
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社  
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社  
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10  
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社  
〒550-0005 大阪府西区西本町3-1-48  
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局  
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12  
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



牛若商事が新年会を開催、関係者多数が参集し親睦深める……P5

- ▶ ALICがセミナー「世界の豚肉需給を読み解く」を開催…………… P 2 ~ 3
- ▶ 利益面が大幅に改善、エスフーズの2026年2月期第3四半期決算…………… P 3
- ▶ 25/26年度の穀物生産量は消費量を上回る見込み—USDA報告…………… P 4
- ▶ かみ応えある食肉加工品摂取が高齢期の口腔機能改善に有効か—日本ハムらが研究…………… P4~5
- ▶ 牛若商事が新年会を開催、関係者多数が参集し親睦深める…………… P 5
- ▶ 輸出拡大に向け、現地系商流への売り込みなどの方針示す—関係閣僚会議…………… P6
- ▶ 2027年5月開催「国際畜産総合展2027 from IPPS」出展申し込みを開始—中央畜産会…………… P6
- ▶ 【関東の輸入豚肉現物相場】F欧州産品薄続く、Cベリーなど堅調…………… P 7
- ▶ 【関東の国産豚肉現物相場】C、Fともにスソ物の引き合い強まる…………… P 7
- ▶ ハンガリーと米国で鳥フル、家禽肉等輸入一時停止…………… P 7
- ▶ [資料]2025年11月分の食肉輸入通関実績⑭…………… P8
- ▶ [資料]2025年11月分の食肉輸入通関実績⑮…………… P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]14日…………… P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]14日…………… P11

## 注目のヘッドライン

### ALICがセミナー「世界の豚肉需給を読み解く」を開催

農畜産業振興機構はこのほど、「世界の豚肉需給を読み解く」と題し、セミナーを開催した。

…詳細はP2~3

### 利益面が大幅に改善、エスフーズの2026年2月期第3四半期決算

…詳細はP3



～おいしさプラス やさしさプラス～

## テンダープラス ジャパン株式会社

- TOKYO** 03-5401-3431 東京都港区浜松町1-27-16 浜松町DSビル5階
- SAPPORO** 011-788-3704 北海道札幌市北区北9条西4-10-3 サンワードガレリアビル3階
- NAGOYA** 052-269-3431 愛知県名古屋市中区新栄2-1-9 雲竜フレックスビル西館6階
- OSAKA** 06-6535-7545 大阪府大阪市西区新町1-4-26 四ツ橋グランドビル6階
- FUKUOKA** 092-433-5861 福岡県福岡市博多区博多駅東2-17-5 ARKビル2階

✉ info@tenderplus.co.jp  
🌐 <https://www.tenderplus.co.jp/>



HP



Product of New Zealand  
ニュージーランド産  
牧草牛

## ALIC がセミナー「世界の豚肉需給を読み解く」を開催

農畜産業振興機構はこのほど、「世界の豚肉需給を読み解く」と題し、セミナーを開催した。

初めに、寺西梨衣審査役が「世界の豚肉需給概論」を説明。各国の豚肉需給をみると、日本では生産量が129万t、輸入量が149万t、消費量が277万t、輸出量が0・2万tと、需要の半数を輸入に頼っている。

中国では、生産量が5706万t、輸入量が131万t、消費量が5827万t、輸出量が10万tと、生産量と消費量はほぼ同程度となっているが、輸入量は日本に近い数字を有しており、その変動は世界の需給に影響を及ぼすとされる。

一方、EUでは生産量が2125万t、輸入量が10万t、消費量が1833万t、輸出量が301万t、米国では生産量が1261万t、輸入量が52万t、消費量が991万t、輸出量が323万t。

ブラジルでは生産量が450万t、輸入量が0・3万t、消費量が297万t、輸出量が153万t、カナダでは生産量が209万t、輸入量が24万t、消費量が90万t、輸出量が114万tと、消費量に対して生産量が多く、一部輸入しているものの輸出国となっている。

メキシコについては、生産量が159万t、輸入量が147万t、消費量が284万t、輸出量が22万tとなっており、輸入国といえる。

豚肉貿易の流れをみると、日本は北米、中南米、EUなど、各地域から輸入している。また、中国もEUやブラジル、北米から輸入。メキシコは北米から輸入している。

日本の豚肉輸入量の推移をみると、24年の輸入先国1位はカナダ(24・5万t)で総輸入量の4分の1を占めている。次いで、米国(22・6万t)、スペイン(16・9万t)、メキシコ(11・2万t)、ブラジル(7・8万t)、デンマーク(5・7万t)の順になっている。20年の輸入先国1位は米国だったが、近年はカナダの輸入量が増加傾向にある。

豚肉消費大国である中国の輸入量の推移をみると、20年前後にアフリカ豚熱のまん延により豚肉生産量が減少したため、20～21年に輸入量が急増。その後、アフリカ豚熱から回復すると、22年には輸入量が急減した。数年間で200万t以上急減する事態と

なった。また、米中貿易摩擦の影響により、輸入先国も変動している。

寺西審査役は「中国が世界の豚肉需給に大きな影響を与えたことは記憶に新しい」と述べた。

続いて、調査情報部の小林大祐氏がカナダの豚肉生産・輸出の現状と今後の見通しについて説明を行った。

カナダは豚肉生産量の約7割が輸出向けの輸出大国となっており、その輸出量は144万tと世界第4位である。また、日本は米国に次ぐ第2位の輸出先で、小売店のほか、外食店のしゃぶしゃぶやトンカツなど、広く利用されている。

カナダ西部では企業型の大規模経営が多く、小麦で肥育され、東部では小規模の家族経営型が多い傾向にあり、とうもろこしを中心に肥育されている。

カナダは、日本の豚肉輸入先国第1位(24年、数量ベース)となっており、その理由について小林氏は「品質、安定性、顧客のニーズへの対応がある。品質では、日本人の好む脂肪交雑の入った肉であること、また、徹底した衛生管理により、チルド対応可能な賞味期限の長さも確保されている」という。その結果、日本に輸入される冷蔵豚肉の半分以上がカナダ産となっている。

一方、カナダ産豚肉における課題に、ブラジルなど新興輸出国の台頭がある。ブラジルについては、ハムやソーセージなど加工向けの冷凍肉が主であるため、テーブルミートとして競合するものではないが、カナダでも冷凍肉を輸出しており、低価格部位という点では競合となる。

また、物流問題として、日本やアジア向けはバンクーバー港から輸出されるが、23年7月、24年11月にストライキが発生。安定的な供給が重要とされる中、輸出遅延はリスクとなる。

カナダ全体の輸出量は20年以降、横ばい～減少傾向にあり、その背景には中国向けの輸出減少が大きく影響している。こうした中、アジアなど輸出先の多様化を図る動きがみられる。

小林氏は「カナダからみて日本は安定した輸出先国であり、輸出量も多いことが利点とされる。しかし、近年では円安などの影響から購買力が低下。引き続

き背脂肪厚や大きさなど、厳格な規格要求も多い」とし、今後は低価格部位輸出を増やすことで対応していく動きもみられるようだ。

最後に今後の見通しについて、①アニマルウェルフェアと持続可能性②アフリカ豚熱対策③供給余力の視点から解説。

カナダでは10年以降、アニマルウェルフェアや持続可能性の取り組みが加速しており、19年には「食品安全・防疫」「動物福祉」「トレーサビリティ」で、生産者主導の取り組みを示した「CPE」を作成。

品質保証マーク「VCP」にも反映されている。各企業は、GHG削減目標も設定するなど、EUや米国の要請にも応えて差別化を図っている。一方で、アジア圏には、引き続き安定供給や価格を訴求していく。

アフリカ豚熱対策で、同国は未発生国であるが、ゾーニング認定を主要輸出先国に働きかけている。すでに米国、EUとは協定締結済みで、日本を含むアジア諸国とも交渉を進めている。日本では、野生猪にお

けるリスク低減策の強化を求めつつ、条件付きでゾーニング認定する方向で協議されている。

供給余力については「西部の処理能力向上・近代化」「肥育豚価格の上昇」「平均枝肉重量の上昇」「廃用母豚の処理能力向上」による増加要因と、「東部の処理能力縮小」「繁殖豚頭数の微減」「労働力不足」による減少要因が考えられ、生産量は横ばい～微増と予測されている。(連載続く)

○豚肉の国別輸入量

(部分肉ベース、単位:千トン、%)

区分 年度	国別輸入量							
	EU計		米 国		CPTPP		うちカナダ	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
平成22	218	122.6	309	112.3	216	101.4	176	100.9
27	293	95.8	266	99.1	241	111.6	170	112.6
28	314	107.3	270	101.7	266	110.4	187	110.1
29	335	106.6	263	97.4	300	113.1	214	114.7
30	316	94.3	258	98.2	313	104.3	223	104.3
令和元	329	104.3	251	97.2	341	108.7	236	105.8
2	257	78.2	250	99.6	341	100.0	235	99.7
3	293	113.7	249	99.5	345	101.4	226	96.1
4	345	117.8	227	91.0	341	98.7	208	92.1
5	268	77.7	225	99.1	382	112.2	221	106.1
6	279	104.2	220	97.8	391	102.3	243	110.1
7(4-10)	154	84.8	124	89.8	241	100.2	163	111.6

資料:財務省「貿易統計」

利益面が大幅に改善、エスフーズの2026年2月期第3四半期決算

エスフーズは14日、2026年2月期第3四半期決算を発表した。それによると、売上高は3466億9500万円(前年同期比5・7%増)、営業利益67億8300万円(105・7%増)、経常利益76億6800万円(80・9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益68億3400万円(362・8%増)と、利益面が大幅に改善した。

セグメント別の概要は次の通り。なお、売上高は外部顧客への売上高を記載し、セグメント利益または損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

食肉等の製造・卸売事業においては、海外事業への先行投資と国内事業の営業力強化、事業運営の効率化に努めた。海外では、米国のオーロラビーフ新工場建設を進めており、本年4月には稼働を開始する予定である。国内では、グループ企業と連携を図り、銘柄牛を中心とした国産牛の販売ルートの充実とシェア拡大に取り組むだけでなく、老朽化施設の整理や生産拠点の集約を行った。この結果、この部門の売上高は3205億5600万円(5・4%増)、セグメン

ト利益は64億7600万円(132・4%増)となった。

食肉等の小売事業においては、不採算店舗閉鎖を実施するとともに、新規デベロッパーとの取り組みを含めた出店や改装店の立ち上げを進めた。また新商品の開発も図り、魅力ある商品や売り場の構築などを実施した。この部門の売上高は181億400万円(3・8%増)、セグメント利益は7億2100万円(19・8%減)となった。

食肉等の外食事業においては、インバウンドや大型のパーティー需要も寄与しているものの、原材料費やエネルギー価格の上昇を受け、メニュー改定を実施するなどの施策を行っており、今後も同事業を取り巻く環境は、厳しい状態が続くものと想定している。今後もお客に安全に安心して利用してもらえるよう、日々の店舗運営維持に努めていく。セグメント売上高は74億500万円(24・4%増)、セグメント利益は3億5200万円(5・0%減)となった。その他売上高は6億2800万円(6・8%増)、セグメント利益は1億2400万円(35・5%増)だった。

## 25 / 26年度の穀物生産量は消費量を上回る見込み—USDA報告

農水省がまとめた米国農務省穀物需給報告(現地時間12日)によると、2025/26年度の世界の穀物全体の需給は、生産量が29億7393万t(前年度比4・2%増)、消費量が29億5813万t、(2・8%増)、期末在庫量が7億9047万t(2・0%増)を見込んでいる。

品目別にみると、小麦の生産量は8億4217万t(5・2%増)、消費量は8億2391万t(1・6%増)、期末在庫量は2億7825万t(7・0%増)を見込んでいる。価格は12月に入り、黒海の穀物輸地域での緊張の高まりなどを受けて5ドル/bu台後半まで値を上げたものの、世界的に潤沢な供給等を受けて値を下げ、12月末現在、5ドル/bu台前半で推移。

とうもろこしの生産量は12億9601万t(5・3%

増)、消費量は12億9980万t(3・9%増)、期末在庫量は2億9091万t(1・3%減)を見込んでいる。価格は12月に入り、米国農務省需給報告で米国産とうもろこしの期末在庫量が市場予想を下回ったことや米国産に対する堅調な需要などを受けて値を上げ、12月末現在、4ドル/bu台後半で推移。

大豆の生産量は、4億2568万t(0・3%減)、消費量は4億2314万t(2・3%増)、期末在庫量は1億2441万t(0・8%増)を見込んでいる。価格は12月に入り、中国の米国産大豆買い付けが不透明なことやブラジル産大豆の豊作予想などを受けて値を下げ、12月末現在、10ドル/bu台半ばで推移している。

## かみ応えある食肉加工品摂取が高齢期の口腔機能改善に有効か —日本ハムらが研究

日本ハムと北海道大学大学院歯学研究院は、口腔機能の低下を認める高齢者35人を対象に、かみ応えのある食肉加工品(シャウエッセン=日本ハム製)を3カ月間摂取する介入試験(パイロット研究)を行った結果、口腔機能の低下が改善する可能性が示唆された。

同研究成果は、第11回アジアフレイルサルコペニア学会(The 11th Asian Conference for Frailty and Sarcopenia 高雄(台湾)、2025年10月17~18日)で発表された。

[研究成果の概要] 口腔機能低下症は、加齢だけでなく、疾患や障害などさまざまな要因によって、口腔の機能が複合的に低下している疾患。放置しているとそしゃく障害や摂食嚥下障害など口腔の機能障害に陥ることで、食べられる食物の種類や量が減少し、たんぱく質やエネルギーなどの栄養摂取バランスを阻害することが報告されている。その結果、低栄養やフレイル、サルコペニアを進展させるなど全身の健康に影響することが分かっている。

このような不可逆的な状態に陥らないためには、継続的な口腔機能の維持・管理が重要とされている。

これまで、そしゃく回数を増やす工夫をした「食事」による高齢者の口腔機能改善報告はあるものの、簡便な「市販食品」を用いた継続的な介入研究はなかった。同研究では、簡便かつ継続的に摂取可能な市販食品として、適度なそしゃくを促すかみ応えを持ち、たんぱく源でもあるソーセージを、一定期間摂取することによる口腔機能への影響を調査した。

[対象と方法] 地域在住高齢者および北海道大学病院歯科外来患者35人に対し、1日1~2本のソーセージ(シャウエッセン)を3カ月間摂取する介入試験(単群試験)を実施。介入前後で(1)口腔機能低下症の診断に用いる7項目の検査(①口腔衛生状態②口腔乾燥③咬合力④舌口唇運動機能⑤舌圧⑥咀嚼能力⑦嚥下機能)の測定値および、(2)7項目のうち機能低下に該当していた数(以下、機能低下該当数)を比較した。

[結果] 介入を完了した31人において、(1)の検査項目のうち、①口腔衛生状態④舌口唇運動機能、⑥そしゃく機能の測定値および、(2)機能低下該当数に有意な改善が認められた。同試験は比較対照のない単群の介入試験であり、今後厳密な検証が必

要となるが、かみ応えのあるソーセージを継続的に摂取することで口腔機能の改善につながる可能性が示唆された。

[発表者コメント] 三浦和仁氏(北海道大学大学院歯学研究院口腔健康科学分野高齢者歯科学教室) 今回の研究は、介入を行わない方を設定していないパイロット研究のため、結果の解釈には注意が必要だが、かみ応えのあるソーセージを継続的に摂取することで口腔機能の改善につながる可能性を示すことができた。健康長寿のためにも高齢者が口腔機能を維持改善することは重要。今後は対照群を設定したランダム化比較試験の実施などでより信頼性の高い結果を出していきたいと考えている。

[用語解説] 「口腔機能低下」とは、加齢や疾患、障害などが原因で、かむ、飲み込む、話す、唾液を出すといった口腔の機能が低下した状態。「フレイル」とは、健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体機能や認知機能の低下がみられる状態。適切な治療や予防を行うことで要介護状態に進まずに済む可能性がある。「サルコペニア」とは、主に加齢や活動不足によって、筋量や筋機能が低下した状態。進行すると歩行困難や転倒・骨折のリスクが高まり、要介護状態につながる可能性がある。「地域在住高齢者」とは、自宅などで自立した生活をしている65歳以上の高齢者。

## 牛若商事が新年会を開催、関係者多数が参集し親睦深める

牛若商事(株)(京都市中京区、森村義幸社長=下写真)は13日、京都市下京区の京都東急ホテルで「令和8年新年会」を開催。金融機関・取引先企業など多くの関係者が出席し、同社のさらなる発展を祈念して親睦を深めた。

冒頭、森村社長は出席者に謝辞を述べ、「最近では会社が良い方向に向かうための取り組みを進めており、社内でも多くのことが変化してきている。昨年を振り返ると乳牛も足りないし、交雑牛も少ないという状況で、皆さまにはいろいろ、ご迷惑をおかけしたかもしれない」「輸入ビーフについては、今年後半には(商機が) 久々に戻ってくるのではないかと考えている。ご存知のとおり、USビーフの価格は高止まりしていることに加え、為替も円安になっているが、今だからこそUS産も復活の兆しが出るような1年になるのではないかと。さまざまなブランドを紹介いただき、独自の販売路線を強化し、販売目標を達成できるように今年も頑張っていきたい。今年は組織としての足場固めとして、引き続き得意先にご愛顧いただくためにも改めて1件1件丁寧に回っていくということで昨年からは順次動いている。成果を出して金融機関の皆さまにも良い報告ができたと思う」「年末商戦も悪い数字ではなかった。一昨年と比べてもほぼ戻ってきている印象なので、今年もそこそこの数字は出せるかなと考えているので皆さまのご協力をお願いしたい」とあいさつ



した。

続いて来賓として、みずほ銀行京都法人第一部の小牧稔如部長、京都中央信用金庫市場支店の山本哲也支店長、京都信用金庫本店の四方喜伸支店長がそれぞれの立場から祝辞を述べた後、



米国食肉輸出連合会の笠谷樹シニアマーケティングディレクターが乾杯の音頭を取り懇親に。祝電披露、ビンゴ大会、有名声優の神谷明氏がゲストとして登壇するなど、華やかな雰囲気のまま盛況裏に終わった。

## 輸出拡大に向け、現地系商流への売り込みなどの方針示す一関係閣僚会議

第23回農林水産物・食品の輸出拡大のための輸入国規制への対応等に関する関係閣僚会議が13日、総理大臣官邸で開催された。

会議では、木原稔内閣官房長官が「現地系商流への売り込み」「輸出先国の多角化」「各国・地域の規制の撤廃・緩和に向けた協議の加速」について、令和7年度補正予算などを活用し、国が全面に立つて強化する必要があると指示した。

鈴木憲和農相は農林水産物・食品の輸出促進の取り組みについて説明。

農林水産物・食品の輸出額は12年連続で過去最高を更新しており、2024年に初めて1・5兆円を突破。12年の4497億円から3倍以上増加している。一方、30年5兆円達成には、さらなる輸出拡大の抜本的なペースアップが不可欠である。

25年の輸出額は過去最高のペースで拡大しており、11月までの輸出額で24年実績1・5兆円に迫る勢いだ。国・地域別では、主要な国・地域の多くで前年同期比プラスとなっており、品目別にみても、牛肉、米、緑茶など、多くの品目で前年同期比プラスを記録する等、堅調に推移している。

今回の閣僚会議の一つのポイントである「現地系商流への売り込みの強化」では、海外における日本食レストラン数が調査開始(13年)以降初の減少となる中、日系の商流だけでなく、輸出拡大余地の大きい現地系スーパーやレストランなどの現地商流を開拓する必要があると指摘。そのため、ジェトロ、JFOODO、在外公館が連携した「輸出支援プラットフォーム」による現地起点の取り組みを進め、現地系商流への売り込みを強化していく必要がある。

## 2027年5月開催「国際畜産総合展 2027 from IPPS」出展申し込みを開始—中央畜産会

公益社中央畜産会は30年余りにわたり催されてきた「国際養鶏・養豚総合展 (IPPS)」を継承し、新たに肉用牛、酪農も加えたオール畜産による総合展「国際畜産総合展2027 from IPPS」を愛知県国際展示場(愛称=Aichi Sky Expo、愛知県常滑市)で2027年5月19～21日に開催する。1月13日から公式サイトで出展の申込受け付けを開始した。

総合展は畜産業界における新たなイノベーション創出、研究開発の促進、若手人材の育成を通じて、日本の畜産の持続的発展、さらには食料自給率の向上に貢献することを目的に開催される。今回から新たに導入された「出展宣言(早期に出展意向を表明する制度)」には1月9日現在ですでに100社・団体から賛同と出展の表明がなされている。

総合展には畜産機械、資材、飼料や動物用医薬品、ワクチン、環境や管理に関する機器やシステム、ビジネス支援に関する機械技術など、畜産

業界に関連するあらゆる分野の出展が可能で、金融・リース、教育・就農支援など農畜産業以外の分野からの出展も期待される。「学術・研究エリア」「ワークショップコーナー」「特別ステージ」の他、デモンストレーションエリアやフードコーナーへの出展者も受け付けている。また、自社製品や畜産関連の取り組みをセミナー形式で発表できる「企業プレゼンテーション」の枠も設けられている。

通常出展の申し込み [https://ipps.gr.jp/exhibit/standard\\_apply/](https://ipps.gr.jp/exhibit/standard_apply/)

フードコーナーの申し込み [https://ipps.gr.jp/exhibit/food\\_apply/](https://ipps.gr.jp/exhibit/food_apply/)

問い合わせ先 国際畜産総合展事務局=電話 03(5577)5707

申込期間 2026年1月13日～7月31日

※締切日以前でも、満小間になり次第受け付けを終了。

## 【関東の輸入豚肉現物相場】 F 欧州産品薄続く、C ベリーなど堅調

【フローズン】年明け以降もスペイン産の輸入停止の影響は大きく、欧州産を中心に品薄感がみられる。特にベリーなどのアイテムは手当てするのが難しくなっており、チルドポークや国産へ需要がシフトするケースも散見される。

【チルド】フローズンポークからの代替需要や気温低下による鍋物需要の増加などもあり、引き続きベリーなどの引き合いは強い。スソ物についても動いており、全体的に荷動きは堅調に推移している。

【輸入豚肉現物相場】 (関東仲間冷蔵庫渡し)

キロ/円、税抜き

	輸入元	部位	相場	気配
フローズン	米国産	クッションミート	730中心	→
		テンダーロイン	840中心	→
	カナダ産	ショート・ボックス	790中心	→
		ウデ	790中心	→
		モモ	790中心	→
	デンマーク産	ベリー	玉なし	→
		カラー	玉なし	→
		ロインMM	880中心	↗
		テンダーロイン	880中心	↗
	フランス産	シートベリー	玉なし	→
カタロース		玉なし	→	
チルド	米国産	ロイン (FLON)	780中心	→
		CCロイン	780中心	→
		テンダーロイン	1,080中心	→
		山付ベリー	1,250中心	↗
	カナダ産	ボックス	830中心	→
		テンダーロイン	1,080中心	→
		ベリー	1,210中心	↗

## 【関東の国産豚肉現物相場】 C、F ともにスソ物の引き合い強まる

年明け以降、稼働日の関係から全国と畜頭数が7万頭を超える日が続いていたものの、年末年始の補充手当てやすぐに3連休を控えていたこともあり、枝肉相場は上物価格600円を超える展開となった。寒波の影響で全国的に気温も低く、鍋物需要も比較的好調に推移している。スペイン産輸入停止の影響もあり、バラの荷動きは堅調。また、学校給食の再開でスソ物の引き合いも強まっている。

フローズンも同様に輸入ポークからの代替需要も散見される中、バラを中心に引き合いがみられる。一方、ロインなどの

荷動きは静かだが、ウデやモモといったアイテムの荷動きは良化している。

関東の国産豚カット肉相場

円/キロ

生鮮物		冷凍物	
部位	相場	部位	相場
カタロース	1,050~1,100	カタロース	970~1,020
ウデ	780~800	ウデ	750~770
ロース	1,000~1,050	ロース	960~980
バラ	1,110~1,200	バラ	1,000~1,050
モモ	760~800	モモ	750~770
ヒレ	980~1,030	ヒレ	920~960

## ハンガリーと米国で鳥フル、家禽肉等輸入一時停止

農水省動物検疫所は13日、ハンガリーと米国の家禽飼養施設において高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されたことから、次の地域から輸出される生きた家禽、家禽肉等の輸入を一時停止したと発表し

た。

【ハンガリー】ノーグラード県 (輸入停止措置日=13日) 【米国】カンザス州ネマハ郡 (1月7日)、グリーンウッド郡 (同)

[資料] 2025年11月分の食肉輸入通関実績⑭

品別国別 (COMMODITY BY COUNTRY)

品名・国名 COMMODITY & COUNTRY	国名 符号 CODE	数量 単位 UNIT	当 月		累 計	
			数量 QUANTITY	価額 VALUE	数量 QUANTITY	価額 VALUE
NETHLD	207 KG	-	-	-	45818	43811
FRANCE	210 KG	893	3243	21024	45143	
GERMANY	213 KG	-	-	7390	12346	
SPAIN	218 KG	-	-	49408	45133	
CANADA	302 KG	-	-	921	1421	
USA	304 KG	2009027	1675175	21995050	16623743	
MEXICO	305 KG	88185	52386	941292	595261	
BRAZIL	410 KG	-	-	36545	11750	
(E. U)	991 KG	3475941	2654552	36238570	26399155	
1602.50-100	991 KG	337786	235073	3350045	2328470	
1602.50-100 その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛のもの)(腸、ぼうこう又は胃の全 形のもの及び断片(単に水煮したもの))						
SPAIN	218 KG	6242	2172	77094	41836	
ITALY	220 KG	221	228	221	228	
USA	304 KG	206927	102953	3513576	1757026	
CHILE	409 KG	-	-	4343	1770	
AUSTRAL	601 KG	36991	15673	194286	73879	
TOTAL	990 KG	250381	121026	3789520	1874739	
(E. U)	991 KG	6463	2400	77315	42064	
1602.50-291	991 KG	-	-	-	-	
1602.50-291 その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛のもの)(臓器及び舌)(単に水煮し たもの)(気密容器入りのもの(野菜を含むもの)を 除く。)						
BRAZIL	410 KG	-	-	26733	27018	
TOTAL	990 KG	-	-	26733	27018	
1602.50-298	990 KG	-	-	-	-	
1602.50-298 その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛のもの)(臓器及び舌)(単に水煮し たものを除く。)(気密容器入りのもの(野菜を含む もの)を除く。)						
CHINA	105 KG	-	-	12880	28117	
TOTAL	990 KG	-	-	12880	28117	
1602.50-320	990 KG	-	-	-	-	
1602.50-320 その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛のもの)(臓器及び舌を除く含有量 の合計が全重量の30%未満のもの)(気密容器入りの もの(野菜を含むもの))(米を含むものを除く。)						
R KOREA	103 KG	1800	1146	2880	1833	
MALYSIA	113 KG	-	-	958	1231	
TOTAL	990 KG	1800	1146	3838	3064	
1602.50-339	990 KG	-	-	-	-	
1602.50-339 その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛のもの)(臓器及び舌を除く含有量 の合計が全重量の30%未満のもの)(米を含むも の)(気密容器入りのものを除く。)(野菜を含むもの を除く。)						
AUSTRAL	601 KG	2880	2911	107604	101093	
TOTAL	990 KG	2880	2911	107604	101093	
1602.50-390	990 KG	-	-	-	-	
1602.50-390 その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛のもの)(臓器及び舌を除く含有量 の合計が全重量の30%未満のもの)(その他のもの)						
R KOREA	103 KG	720	355	4080	1948	
CHINA	105 KG	43056	36494	643601	504797	
AUSTRAL	601 KG	49	293	148	561	
TOTAL	990 KG	43825	37142	647829	507306	
1602.50-510	990 KG	-	-	-	-	
1602.50-510 その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛のもの)(調味した後に乾燥したも の)(気密容器入りのもの)(冷蔵及び冷凍のいずれ もしていないもの)						
NEWZELD	606 KG	1720	8705	53599	259637	
TOTAL	990 KG	1720	8705	53599	259637	
1602.50-590	990 KG	-	-	-	-	
1602.50-590 その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛のもの)(調味した後に乾燥したも						

(単位: 1,000円、UNIT: ¥1,000)

品名・国名 COMMODITY & COUNTRY	国名 符号 CODE	数量 単位 UNIT	当 月		累 計	
			数量 QUANTITY	価額 VALUE	数量 QUANTITY	価額 VALUE
CHINA	105 KG	2501	13288	13294	69206	
URUGUAY	412 KG	-	-	31665	134996	
AUSTRAL	601 KG	-	-	13810	65342	
TOTAL	990 KG	2501	13288	58769	269544	
1602.50-600	990 KG	-	-	-	-	
1602.50-600 その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛のもの)(コーンビーフ)						
PHILPIN	117 KG	6528	6312	33854	35339	
BRAZIL	410 KG	-	-	102482	65918	
URUGUAY	412 KG	-	-	15667	12913	
NEWZELD	606 KG	-	-	45090	86453	
TOTAL	990 KG	6528	6312	197093	206623	
1602.50-700	990 KG	-	-	-	-	
1602.50-700 その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛のもの)(臓器及び舌を除く含有量 の合計が全重量の30%以上のもの)(気密容器入りの もの(野菜を含むもの))						
R KOREA	103 KG	-	-	21600	14473	
CHINA	105 KG	18532	14404	129724	97628	
MYANMAR	122 KG	-	-	2910	2841	
PAKISTN	124 KG	264	253	930	880	
GERMANY	213 KG	-	-	602	618	
AUSTRAL	601 KG	315044	314061	5213776	4847278	
TOTAL	990 KG	333840	328718	5369542	4963718	
(E. U)	991 KG	-	-	602	618	
1602.50-890	991 KG	-	-	-	-	
1602.50-890 その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛のもの)(臓器及び舌を除く含有量 の合計が全重量の30%以上のもの)(気密容器入りの もの(冷蔵及び冷凍のいずれもしていないものに限 るものとし、野菜を含むものを除く。))(その他の もの)						
THAILND	111 KG	-	-	20828	30312	
GERMANY	213 KG	-	-	2781	2913	
USA	304 KG	-	-	6	822	
TOTAL	990 KG	-	-	23615	34047	
(E. U)	991 KG	-	-	2781	2913	
1602.50-910	991 KG	-	-	-	-	
1602.50-910 その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛のもの)(臓器及び舌を除く含有量 の合計が全重量の30%以上のもの)(単に水煮したも の)						
BRAZIL	410 KG	-	-	4313	3441	
TOTAL	990 KG	-	-	4313	3441	
1602.50-999	990 KG	-	-	-	-	
1602.50-999 その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛のもの)(臓器及び舌を除く含有量 の合計が全重量の30%以上のもの)(気密容器入りの ものを除く)(その他のもの)						
USA	304 KG	-	-	7620	16150	
AUSTRAL	601 KG	-	-	15619	23753	
TOTAL	990 KG	-	-	23239	39903	
1602.90-100	990 KG	-	-	-	-	
1602.90-100 その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛、豚以外のもの)(腸、ぼうこう又 は胃の全形のもの及び断片(単に水煮したもの))						
ARGENT	413 KG	49104	21736	143100	70718	
AUSTRAL	601 KG	-	-	1380	785	
TOTAL	990 KG	49104	21736	144480	71503	
1602.90-210	990 KG	-	-	-	-	
1602.90-210 その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、 くず肉及び血(牛、豚以外のもの)(牛若しくは豚の 肉又は牛若しくは豚のくず肉を含有するもの)						
R KOREA	103 KG	1800	826	8400	3621	
PHILPIN	117 KG	-	-	2880	4152	
TOTAL	990 KG	1800	826	11280	7773	
1602.90-269	990 KG	-	-	-	-	
1602.90-269 その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉						

[資料] 2025年11月分の食肉輸入通関実績⑮

品別国別 (COMMODITY BY COUNTRY)

(単位: 1,000円、UNIT: ¥1,000)

品名・国名 COMMODITY & COUNTRY	国名 符号 CODE	数量 単位 UNIT	当 月		累 計	
			数量 QUANTITY	価額 VALUE	数量 QUANTITY	価額 VALUE

品名・国名 COMMODITY & COUNTRY	国名 符号 CODE	数量 単位 UNIT	当 月		累 計	
			数量 QUANTITY	価額 VALUE	数量 QUANTITY	価額 VALUE

虫類(その他のもの)

CHINA	105 KG	-	-	33008	27464
THAILND	111 KG	-	-	380	586
TOTAL	990 KG	-	-	33388	28050

1602.90-290 その他の調製をし又は保存に適する処理をした肉、

くず肉及び血(牛、豚以外のもの)(その他のもの)

CHINA	105 KG	31968	4662	300633	57369
TAIWAN	106 KG	720	292	16466	13834
MONGOL	107 KG	600	930	2280	3226
MYANMAR	122 KG	-	-	1380	2025
PAKISTN	124 KG	192	361	478	826
GERMANY	213 KG	-	-	28711	33421
TOTAL	990 KG	33480	6245	349948	110701
(E.U)	991 KG	-	-	28711	33421

1603.00-010 肉エキス及びミートジュース

CHINA	105 KG	-	-	840	3701
TAIWAN	106 KG	-	-	323	2458
THAILND	111 KG	-	-	468	1713
FRANCE	210 KG	23000	34672	449310	625597
USA	304 KG	5	406	25	2352
URUGUAY	412 KG	-	-	38251	80122
AUSTRAL	601 KG	19110	7082	238141	295293
PAP NGA	602 KG	-	-	4092	9923
NEWZELD	606 KG	960	3190	36375	118290
TOTAL	990 KG	43075	45350	767825	1139449
(E.U)	991 KG	23000	34672	449310	625597

1603.00-090 魚又は甲殻類、軟体動物若しくはその他の水棲無脊

椎動物のエキス及びジュース

R KOREA	103 KG	43720	44935	306738	305650
CHINA	105 KG	230327	119719	2083419	1065595
TAIWAN	106 KG	-	-	6740	143265
VIETNAM	110 KG	-	-	18356	10097
THAILND	111 KG	125186	51313	1318480	542268
INDNSIA	118 KG	35100	11317	720498	239773
DENMARK	204 KG	-	-	10000	7734
SPAIN	218 KG	304	1560	579727	192846
CANADA	302 KG	-	-	19195	20928
USA	304 KG	58166	21739	351421	130727
AUSTRAL	601 KG	-	-	14040	13123
NEWZELD	606 KG	-	-	1338	14514
TOTAL	990 KG	492803	250583	5429952	2686520
(E.U)	991 KG	304	1560	589727	200580

3502.11-000 卵白(乾燥したもの)

CHINA	105 KG	-	-	51310	54504
INDIA	123 KG	168000	200184	1110700	1140625
SWEDEN	203 KG	-	-	68700	75494
NETHLDs	207 KG	288425	355686	2000050	2125113
BELGIUM	208 KG	25000	29686	279400	298194
FRANCE	210 KG	122600	152347	917200	976783
GERMANY	213 KG	46175	58910	572225	592335
ITALY	220 KG	107000	131347	1560993	1739072
POLAND	223 KG	73800	67612	880000	839191
TURKEY	234 KG	-	-	7175	6759
LITHUAN	237 KG	-	-	6600	6000
USA	304 KG	0	1228	2	13097
BRAZIL	410 KG	-	-	64425	54558
ARGENT	413 KG	23000	22411	378000	336116
TOTAL	990 KG	854000	1019411	7896780	8257841
(E.U)	991 KG	663000	795588	6285168	6652182

3502.19-000 卵白(乾燥したものを除く。)

LITHUAN	237 KG	-	-	33600	5647
BRAZIL	410 KG	144000	24318	604848	93048
TOTAL	990 KG	144000	24318	638448	98695
(E.U)	991 KG	-	-	33600	5647

(終わり)

# 東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 1月14日  
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1		
和牛	雌 A	高値	3,169	2,651	2,273	-	-	
		安値	2,160	1,771	1,993	-	-	
		平均	2,485	2,282	2,154	-	-	
	102頭	頭数	61	30	11	-	-	
	雌 B	高値	-	-	-	-	-	
		安値	-	-	-	-	-	
		平均	-	-	-	-	-	
	-頭	頭数	-	-	-	-	-	
	去 A	高値	3,101	2,405	2,214	-	-	
		安値	2,119	2,162	1,746	-	-	
		平均	2,443	2,246	2,078	-	-	
	164頭	頭数	122	34	8	-	-	
去 B	高値	-	-	-	-	-		
	安値	-	-	-	-	-		
	平均	-	-	-	-	-		
-頭	頭数	-	-	-	-	-		
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-		
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-		
	去 B -頭	平均	-	-	-	-		
	去 C -頭	平均	-	-	-	-		
交雑牛	雌 B	7頭	平均	-	1,629	1,536	1,542	-
		頭数	-	2	3	2	-	
	雌 C	4頭	平均	-	-	1,500	1,467	-
		頭数	-	-	2	2	-	
	去 B	21頭	平均	-	1,710	1,631	1,521	-
		頭数	-	4	11	6	-	
去 C	2頭	平均	-	-	1,645	1,513	-	
	頭数	-	-	1	1	-		

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	396 392	990 1,050	- 170.0	(競り)	(相対)	
				-	12	75

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,163	1,734	1,674	1,613	-
	B	-	-	1,654	1,511	1,358
和 去	A	2,471	2,054	-	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	1,009	1,026
	C	-	-	-	1,030	967
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,618	1,593	1,428	-
	C	-	1,536	-	-	-
交 去	B	-	1,679	1,628	1,489	-
	C	-	-	1,511	1,508	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	583	711	694	648	529
	安値	540	518	489	443	194
	平均	560	544	536	514	456
	頭数	( 5)	( 294)	( 366)	( 295)	( 90)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
搬入 相対	高値	-	-	-	-	525
	安値	-	-	-	-	525
	平均	-	-	-	525	525
	頭数	( -)	( -)	( -)	( 1)	( 11)

[大阪食肉卸売市場] 1月14日  
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [ ]は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,580	2,231	1,955	-	-
(頭数)	( 7)	( 9)	( 1)	( -)	( -)
B	2,213	2,108	-	-	-
(頭数)	( 1)	( 3)	( 1)	( 1)	( -)
和 去 A	2,483	2,186	-	-	-
(頭数)	( 28)	( 7)	( -)	( -)	( -)
B	2,236	-	-	-	-
(頭数)	( 1)	( -)	( -)	( -)	( -)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	-	1,611	1,479	-
C	-	-	-	1,481	-
交雑去 B	-	1,664	1,567	-	-
C	-	1,612	1,555	1,406	-
豚	-	517	470	397	363

[全国と畜概算頭数]  
農水省統計部発表 (頭)

	1月14日	1月13日	(1月累計)
豚	73,700	76,200	507,600
成牛計	4,540	4,760	31,730
和牛雌	1,150	1,220	7,740
和牛去勢	1,320	1,270	8,710
乳牛雌	670	660	4,770
乳牛去勢	410	460	3,220
交雑雌	430	520	3,400
交雑去	560	630	3,890

[去勢牛B3・2規格 枝肉取引価格] 1月14日

東京	1,569 円	(前日 1,563 円)
大阪	1,543 円	(前日 1,516 円)

[豚・全農建値] 1月14日

上	中	取引頭数	市況
551 円	536 円	1,430 頭	急落

と畜 売買	牛 71 頭	豚 160 頭	牛概況	もちあい
	牛 102 頭	豚 150 頭	豚概況	続落

# 各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 1月14日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	594 (616)	- (-)	6,646	-	下押し
仙台 [中]	567 (536)	502 (478)	431	56	反発
栃木 [地]	- (-)	553 (-)	1,821	60	-
茨城 [地]	554 (-)	527 (-)	1,519	517	上伸
群馬 [地]	526 (517)	445 (437)	2,840	422	小反発
さいたま [中]	535 (569)	530 (562)	339	348	反落
東京 [中]	544 (551)	536 (541)	990	1,050	反落
横浜 [中]	574 (586)	544 (553)	689	597	続落
山梨 [地]	634 (664)	533 (642)	171	133	まちまち
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	573 (571)	559 (557)	997	274	もちあい
京都 [中]	- (592)	- (581)	-	-	休市
大阪 [中]	517 (531)	470 (475)	160	71	続落
神戸 [中]	665 (-)	643 (-)	125	137	-
岡山 [地]	592 (586)	582 (579)	350	391	堅調
広島 [中]	561 (583)	522 (539)	245	105	急落
福岡 [中]	588 (584)	571 (552)	600	175	強もちあい

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 1月7日~1月13日  
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,305,065 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,115	1,219	1,311	1,215	44,919
うで	692	744	773	737	107,039
ロース	1,061	1,123	1,145	1,111	122,404
ばら	1,186	1,265	1,334	1,255	106,958
もも	702	733	780	741	136,767
ヒレ	1,056	1,078	1,134	1,080	16,944
セット	867	956	1,083	968	770,034

◇近畿圏 総重量 668,709 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,263	1,360	1,389	1,346	60,732
うで	667	745	788	747	113,941
ロース	1,137	1,220	1,282	1,226	87,827
ばら	1,271	1,350	1,415	1,351	116,320
もも	691	744	788	742	144,817
ヒレ	1,080	1,292	1,323	1,243	11,509
セット	850	978	1,072	970	133,563

[食鳥正肉日経相場] 1月13日  
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	750	838	1,011	195
ムネ	489	547	681	155

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	745	792	1,050	7
ムネ	471	518	610	4

[農水省統計情報部食鳥市況] 1月13日  
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値					
安値					
平均	13日分は16日掲載				

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

# 食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

### ■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

### ■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

### ◆食肉販売&経営関連

## 銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

## 銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

### ◆イベント

#### ■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



## 食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで  
お近くの食肉通信社まで

# 株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。

## 週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランクカット判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

## 日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

## 月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

### ◆教材&レポート等

#### ■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男  
鏡見著

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

#### ■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

#### ■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

#### ■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

### ◆ステーショナリー

## 食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します